

風のスタジオ公演情報

イチニノ MISSION-27 IN MORIOKA
「正午 ～これまでと、これからの、はざまのいま～」

作・演出：前島宏一郎 / 制作：Project ICHININO

CAST：荒木みなみ（劇団創造市場）、伊藤舞（雲の劇団雨蛙）、
梅木彩羽（イチニノ）、宍戸輝子（劇団クリエ）、前島宏一郎（イチニノ）、先崎瑛奈（イチニノ）、森裕嗣

STAFF：<照明> 赤城治利（A工房）、<音響> 戸室健太郎

日時：9月19日（土）19:00～ / 9月20日（日）14:00～
（受付は開演の40分前、開場20分前 / 上演は約100分予定）

場所：いわてアートサポートセンター 風のスタジオ

料金：一般 前売 2,000円（当日 2,500円）

U18 前売 1,000円（当日 1,500円）

チケット取扱い：イチニノ公式予約フォーム↓

<https://www.quartet-online.net/ticket/ichinino-shogo>

盛岡市内プレイガイド：風のスタジオ / もりおか町家物語館 / カワトク /
プラザおでって / Cyg art gallery

主催：イチニノ

提携：特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター

協力：雲の劇団雨蛙 / 劇団クリエ / 劇団創造市場

いわて震災小説 2021 作品募集のお知らせ

震災及び震災後の風土や心象、人々の日々の営みなどをテーマにした「短編小説」を執筆してみませんか？お寄せいただいた作品の中から選考された数編を入選作品集「いわて震災小説 2021」として発行いたします。また、来年3月7日に盛岡で開催予定の「いわて文化復興支援フォーラム」の中で朗読劇として上演いたします。

応募資格 岩手県在住者、在住経験者、出身者など岩手ゆかりの方

概要 東日本大震災以降に書かれ、震災及び震災後の風土、社会の移り変わりの中で生きる人々の営み、心象などをテーマにした未発表の短編小説。

応募規定 400字詰原稿用紙換算15枚～30枚の小説。

応募は1人1編。原稿用紙（400字詰）の郵送またはメールにて受付。ただし、すべて縦書きとし、メールはWordによる添付文書とすること。次の事項を明記した別紙を添付すること。

①作品題名②筆名（本名）③生年月日・年齢・性別④職業または学校名

⑤住所・電話番号⑥岩手県在住以外の方は岩手との関わり合いを付記

応募締切 10月31日（土）消印有効

発表 12月予定 いわてアートサポートセンターHP上にて発表

応募先 〒020-0878岩手県盛岡市肴町4-20永卯ビル3階

いわてアートサポートセンター内「いわて震災小説2021」係
MAIL:kaze@iwate-arts.jp

◆朗読劇「高橋克彦百物語」

REPORT

8月1・2・8・9日に当館浜藤ホールにて朗読劇「高橋克彦百物語」を開催しました。公募で集まった10名の参加者と、IBC 岩手放送と岩手めんこいテレビのアナウンサー8名が同じ舞台に立ち、高橋克彦の怪談を熱演。全6ステージ・計200名のお客様にご来場いただきました。

毎年夏に開催していた「町家のお化け屋敷」が新型コロナウイルスの影響により中止となった今夏、当館だけでなく全国的にもイベントが少なくなっている状況でも、このような公演を開催できたことで、入場者からも久々に楽しかったという声を多数いただきました。マスクの着用だけでなく、徹底した検温や定期的な換気、また客席のみならず舞台上でのソーシャルディスタンスを作るなど、感染防止対策を万全にしたうえで開催に臨む—この形を次につなげて、今後も様々なイベントが開催できればと思います。ご来場いただいた皆様に感謝申し上げます。

発行者 特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター

【本部】

〒020-0874 盛岡市南大通1丁目15-7 南大通ビル3階

TEL (019)656-8145 FAX (019)656-8146

E-mail info@iwate-arts.jp URL http://iwate-arts.jp

本部・風のスタジオ HP

【肴町事務所・風のスタジオ】

〒020-0878 盛岡市肴町4-20 永卯ビル3階

TEL (019)604-9020 FAX (019)604-9021

E-mail kaze@iwate-arts.jp URL http://iwate-arts.jp

〈窓口営業時間〉火・水・金 10:00～18:30 木・土 10:00～17:00

〈施設利用可能時間〉9:30～21:30

もりおか町家物語館 HP

【もりおか町家物語館】

〒020-0827 岩手県盛岡市鉾屋町10-8

TEL (019)654-2911 FAX (019)654-2913

E-mail machiya@iwate-arts.jp URL http://machiya.iwate-arts.jp

〈開館時間〉9:00～19:00（最終入館 18:30）※浜藤ホールのみ利用時は21:30まで

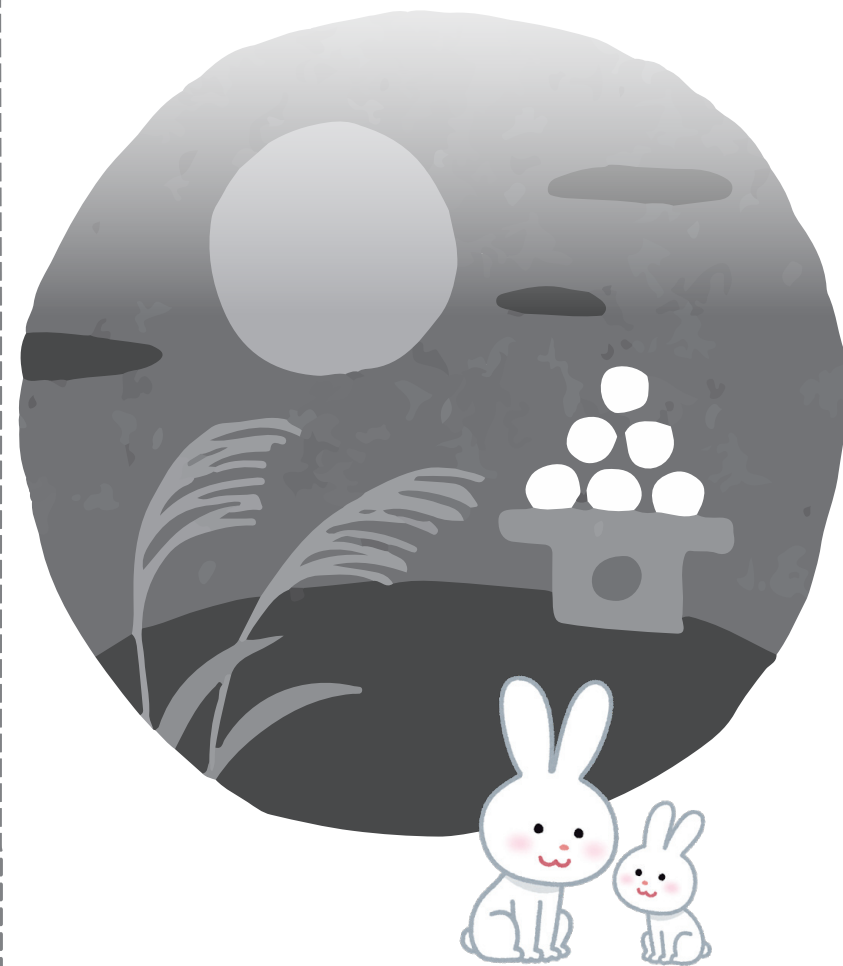
〈休館日〉毎月第4火曜（休日の場合はその翌日）年末年始 12/29～1/3

〈入館料〉無料 ※一部企画展は有料の場合があります。



9

もりおか町家・風の通信



MACHIYART2020

第46回 盛岡彫刻シンポジウム 野外展

「彫刻のある街と市民文化の推進を願う」をテーマとした展示です。盛岡彫刻シンポジウムは、国内でもっとも長く続く彫刻シンポジウムです。ぜひ、ご覧ください。

会期 9月26日(土)～10月18日(日) 入場無料

会場 もりおか町家物語館 風の広場

主催 盛岡市、盛岡彫刻シンポジウム実行委員会、
NPO法人いわてアートサポートセンター

MACHIYART2020 エニナルモリオカ

【作品募集のお知らせ】

盛岡を表現した絵画・版画・写真作品（2L～S4号サイズ以内）を募集します。

募集期間 11月1日(日)～11月7日(土)
作品展示 11月20日(金)～12月6日(日)
会場 もりおか町家物語館 母屋
(母屋・文庫蔵1階・他)

※詳細は、当館・市内各所に配架のほか、当館ホームページに掲載の募集要項をご確認ください。

問合せ TEL:019-654-2911 もりおか町家物語館



浜藤古本市

開催日時

10月10日(土)・11日(日)
10:30～15:00

会場 もりおか町家物語館 浜藤ホール

古本をはじめ、しおりなどの読書グッズなどを販売いたします。ぜひお越しください。



もりおかお茶の学校
～中国のお茶・気仙のお茶編～

日時 10月14日(水)

昼の部14:00～15:30/夜の部18:00～19:30

講師 前田千香子氏(培茶工房しゃおしゃん主宰)

会場 もりおか町家物語館 カフェDOMA

受講料 1,600円(お茶3種・茶菓子つき)

定員 各6名(先着順) ※要申込

【申込方法】

受付開始:9月19日(土)午前10:00～

電話またはメールにて、以下をお知らせください

- ①ご希望の回(昼の部/夜の部)
- ②お名前(漢字表記/ふりがな)
- ③お電話番号

TEL:019-654-2911 MAIL:machiya@iwate-arts.jp

もりおか町家物語館

※新型コロナウイルス感染拡大により、やむを得ず中止する場合がございます。ご了承ください。当日はマスクの着用、手指の消毒にご協力をお願いいたします。



カフェ DOMA

海からやってきた(5人展)

9月7日(月)～10月31日(土)
(最終日 16:00まで)

海から 宮古からやってきた 5名の展覧会です。

<出品者>

加村なつえ、盛合崇、澤田学、坂下晴香、黒田萌



営業時間 /10:30—16:00 ※(火)(水)はドリンクのみ提供
カフェの営業時間外も、施設開館中は見学可能です。(9月23日は休館日)
臨時休業の場合もございます。営業時間はホームページ等でご確認ください。

リレーコラム No.50

「石に学び、歴史に学び、未来に想いを馳せる」

皆様いかがお過ごしでしょうか。

新型コロナウイルスの感染に注意を払いながらの生活、このような生活になるとは誰も思いませんでしたね。不自由を強いられながらも、私たちはこれまで何を大切に、これから何を大切にしていかなければいけないのか、いろいろ考えさせられたのではないのでしょうか。

歴史上、世界中でこれまでも多くの疫病が流行しています。根絶することはなくても、人間は知恵をしばり、乗り越え、新たな歴史を築いてきました。歴史は繰り返すのですね。

さて、昨年9月、盛岡彫刻シンポジウムは45年を数え、これまで盛岡シンポジウムの活動に関わった国内外で活躍する作家の作品を一堂に会し、野外展と記念展をこの町家物語館で開催させていただきました。

岩手大学構内でスタートした盛岡彫刻シンポジウムは、姫神山の石切場や四十四田公園、盛岡城跡公園等で公開制作を行い、野外展や林間教室、音楽会を開催しながら皆さんの理解をいただけてきました。特定の制作場所や発表場所を持たないことで、地域、地域の皆さんとの関わりを持つことができたこともシンポジウムの面白さで、ここ、もりおか町家物語館もその一つになりつつあります。いったいこの人たちは何をしているんだろう?と見に来るわけです。また、素材というのも魅力で、石という素材が重くて固いだけではないんだ、ということがわかれば、それは素敵なことです。

こういう時だからこそ、作品に触れて、感じ、いろいろ想いを馳せてみることも、私たちにとって大切な生活の一部のような気がします。歴史が変われば疫病が流行し、そして、それを乗り越えての繰り返し。今は、石に学び、歴史に学び、未来に想いを馳せるという時なのかもしれませんね。

盛岡彫刻シンポジウム実行委員会 ディレクター
佐々木 悦也